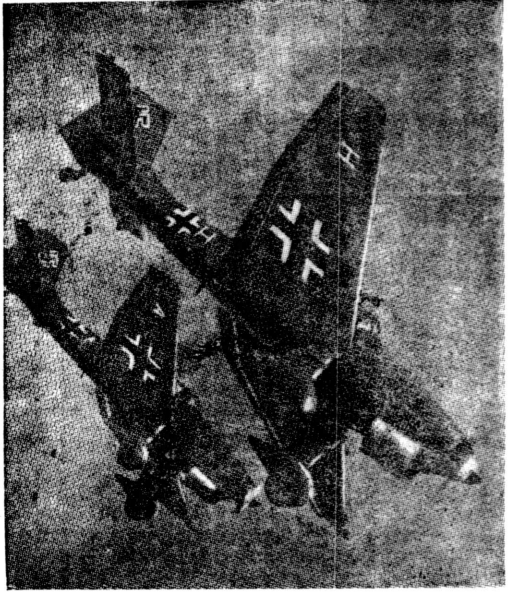


# 深夜の大空に十時間 獨鷲必殺の爆撃敢行

## 市街、港灣施設など火の海

【ロンドン十七日UP】昨夜ロンドンは長時間にわたる猛烈な獨機爆撃を受け、市街、港灣施設、工場、住宅などが火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。



獨空軍急降下爆撃の利那 Bombardeiros alemães

## 希臘國名譽のため 獨側穩健な和平策

### ユーゴには考慮の餘地なし

【ロンドン十七日UP】英空軍は昨夜、獨機爆撃隊をロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。



## 英獨軍激闘を展開

### 戦局は聯合軍側に有利

#### ギリシヤ軍の發表

【アテネ十七日UP】ギリシヤ軍は獨機爆撃隊をロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 潰滅は豫定の事實

### ユーゴ軍支離滅裂

#### 獨側、英軍必滅へ全力

【ベルリン十七日UP】獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 東アフリカ戦線

### 英側完全に勝利

#### 捕虜五万を算す

【ロンドン十七日UP】東アフリカ戦線は、英側が完全に勝利した。捕虜五万を算す。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 獨空軍急降下爆撃の利那

### トルコは冷静

#### 市民引揚げの理由表明

【アンカラ十七日UP】トルコは、獨機爆撃隊の急降下爆撃に冷静に対処した。市民引揚げの理由を表明した。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 英軍の退路断つ

### 獨空軍巨弾の雨

【ベルリン十七日UP】獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 僅か半月間に 英艦五十二万トン撃沈

### 獨官邊筋の發表

【ロンドン十七日UP】英艦五十二万トンが獨機爆撃隊に撃沈された。獨官邊筋の發表によると、英艦五十二万トンが撃沈された。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 北阿戦線こそ 英國興廢の鍵

### 英紙一齊に悲壯な論調

【ロンドン十七日UP】北阿戦線こそ、英國興廢の鍵となる。英紙一齊に悲壯な論調を醸成した。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 駐土獨大使 トルコ態度報告

### トルコ態度報告

【アンカラ十七日UP】駐土獨大使はトルコ政府の態度を報告した。トルコは獨機爆撃隊の急降下爆撃に冷静に対処した。市民引揚げの理由を表明した。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 不法爆撃に憤激

### 勃、對獨國交断絶の理由

【ワシントン十六日UP】勃は、獨機爆撃隊の不法爆撃に憤激をあらわした。勃は對獨國交断絶の理由を述べた。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 對外政策を再検討

### 自主積極外交戦へ

#### 帝都各紙、條約後の効力論評

【東京十七日UP】對外政策を再検討する。自主積極外交戦へ進む。帝都各紙は條約後の効力論評を掲載した。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 南支沿岸の封鎖區域 さらに追加擴大

### 島田司令長官、宣言を發表

【上海十七日UP】南支沿岸の封鎖區域がさらに追加擴大された。島田司令長官は宣言を發表した。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 機械化部隊の裝備

### イラン國、ドイツへ依頼

【ロンドン十七日UP】機械化部隊の裝備をイラン國に依頼した。ドイツは機械化部隊の裝備を提供する。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 成果の如何問はず 日蘭會商を打切れ

### 國民新聞、強硬決意を仄す

【東京十七日UP】日蘭會商の結果、成果の如何問はず、日蘭會商を打切った。國民新聞は強硬決意を仄す。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 飛躍日本の姿! 人口遂に一億突破

### 國勢調査の結果發表

【東京十七日UP】日本の姿が飛躍的に伸びた。人口遂に一億突破した。國勢調査の結果が發表された。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

## 獨長距離砲 再び咆哮

### 英本土へ飛ぶ

【ロンドン十七日UP】獨長距離砲が再び咆哮した。英本土へ飛ぶ。獨機爆撃隊は昨夜、ロンドンに對して大規模な空襲を試みた。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。爆撃は十時間以上続いた。空襲警報は午後十時頃から始まり、翌朝まで続いた。市街の中心部は完全に火の海に包まれた。港灣施設も大規模な被害を受けた。工場も多数が焼失した。住宅も大規模な被害を受けた。死者も多数出た。被害は甚大だ。獨機は必殺の爆撃敢行を行った。市街、港灣施設など火の海に包まれた。

### 南京政府軍 遊撃隊と交戦

南京	1,000
鎮江	1,000
揚子江	1,000
...	...

### 國勢調査の結果發表

合計	100,000,000
男子	50,000,000
女子	50,000,000
...	...



### マルチンス駐米大使 米國務次官と重要協議 交戦國商船の備船打合せ

【ワシントン十六日】米國務院は、マルチンス駐米大使と重要協議を行った。マルチンス大使は、交戦國商船の備船打合せに、米國務院の協力を求めた。米國務院は、この要求に、協力を示した。また、米國務院は、交戦國商船の備船打合せに、米國務院の協力を求めた。米國務院は、この要求に、協力を示した。

### 熔岩の噴出熄まず 各地森林に山火事 メキシコ大震災の慘状

【メキシコ十六日】メキシコの大震災は、各地に山火事を起し、森林を焼く。また、熔岩の噴出も止まず、各地に被害を及ぼしている。メキシコの大震災は、各地に山火事を起し、森林を焼く。また、熔岩の噴出も止まず、各地に被害を及ぼしている。

### ビーニョ輸出に 船腹不足の悩み 海運委員会審議を確約

【リオ十六日】ビーニョの輸出に、船腹不足の悩みがある。海運委員会は、この問題を審議し、解決策を確約した。ビーニョの輸出に、船腹不足の悩みがある。海運委員会は、この問題を審議し、解決策を確約した。

### パロス執政官 就任三周年を祝ふ 農工商團體を代表

【リオ十六日】パロス執政官の就任三周年を祝ふ。農工商團體は、代表を派遣し、祝賀を行った。パロス執政官の就任三周年を祝ふ。農工商團體は、代表を派遣し、祝賀を行った。

### ヴァルガス大統領 あす誕生の佳き日 チラデネス宮で賑かに擧式

【リオ十六日】ヴァルガス大統領の誕生を祝ふ。あすは誕生の佳き日。チラデネス宮で、賑かに擧式が行われる。ヴァルガス大統領の誕生を祝ふ。あすは誕生の佳き日。チラデネス宮で、賑かに擧式が行われる。

### 亞國首都で 工業展開く モントビデオ十六日

【モントビデオ十六日】モントビデオの工業展開が、亞國首都で盛んに行われている。モントビデオの工業展開が、亞國首都で盛んに行われている。

### 對米冷凍肉輸出 愈よ近く實現か 米側でも買付け準備

【ワシントン十六日】米側では、對米冷凍肉輸出の準備が進んでいる。愈よ近く實現か。米側でも買付け準備。對米冷凍肉輸出の準備が進んでいる。愈よ近く實現か。米側でも買付け準備。

### チラデネス祭 今年より復活 巴拉イバ

【リオ十六日】チラデネス祭は、今年より復活する。巴拉イバ。チラデネス祭は、今年より復活する。巴拉イバ。

### 衛生院の陣容決る 盛大に就任式舉行 總裁にパロス・バレット氏

【リオ十六日】衛生院の陣容が決定された。盛大に就任式が行われ、總裁にパロス・バレット氏が就任した。衛生院の陣容が決定された。盛大に就任式が行われ、總裁にパロス・バレット氏が就任した。

### 米國工業調査團 空路リオに到着 財界名士盛大に歓迎

【リオ十六日】米國工業調査團が、空路でリオに到着した。財界名士が盛大に歓迎した。米國工業調査團が、空路でリオに到着した。財界名士が盛大に歓迎した。

### 大使館護衛 米、英、法、米軍護衛

【ワシントン十七日】大使館の護衛が、米、英、法、米軍によって行われている。大使館の護衛が、米、英、法、米軍によって行われている。

### 輸送船護衛 決議案審議延期

【ワシントン十六日】輸送船の護衛に関する決議案の審議が、延期された。輸送船の護衛に関する決議案の審議が、延期された。

### 聖州執政官 各長官を従へ 新政府閣議場へ

【リオ十六日】聖州執政官は、各長官を従へ、新政府閣議場へ赴いた。聖州執政官は、各長官を従へ、新政府閣議場へ赴いた。

### ピピン泰國首相 愈よ内閣改造を断行 ベラライバ

【バンコク十五日電】ピピン泰國首相は、愈よ内閣改造を断行する意向を示している。ピピン泰國首相は、愈よ内閣改造を断行する意向を示している。

### 不法越境へ タイ側對英抗議 タイ側對英抗議

【バンコク十六日電】タイ側では、不法越境への對英抗議が行われている。タイ側では、不法越境への對英抗議が行われている。

### 求 人 一、青年 二、名 或は二人働ける小家族 一、眞面目なる方

古田土養鶏場  
Kura Amatsubo, 117-1, Paulo

### 外國人登録 迅速 確實

黒木美代子  
事務所

### 職 員 錄 出張員 川崎繁秋宛

聖市日伯社

果樹音  
本多果樹園  
淋病  
Dr. H. FENICIO  
Av. S. João, 536-6 and - Tel. 4-1188

R. Monteiro & Co.  
CASA MATRIZ E ESCRITORIO  
Rua 25 de Março, 533  
Casas Filiais:  
Rua José Bonifácio, 43  
Rua Boa Vista, 199  
Santos  
Rio de Janeiro

體内の磷素缺乏  
求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

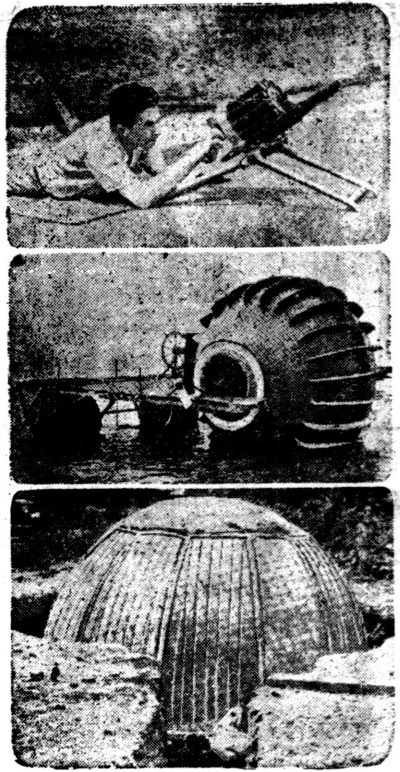
求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄

求 人  
外國人登録  
職 員 錄



スーユニるあの眞寫



器武新な飛突 狂明發く燒を事も府政國米

軍用飛行機に用いた米國發明品は、...

棉賣りの秘訣傳授 好機を逸するな! 慾を出したら損と思へ

今年の棉花は高値なるとは、如何なる理由...

自家用車を船についで 伯國へパシヤ

去る十二日セント...

ニッポン見たま(二)

或日本人の友...

偉業を稱ふ パーロス執政官 就任三周年の祝ひ



アデマル・パーロス執政官...

再度の訪伯準備で 水泳選手は張り切

齋藤魏洋氏から水の便り...

蹴球の國粹化 外國人職業選手には 公開競技出場を制限

體育會議を創設して全伯國...

故國の便り 南米向、中南米放送 四月中の周波數、時刻表

Table with columns for destination (e.g., 南米向, 中南米放送) and broadcast details (周波數, 時刻表).

水泳中に心臓麻痺 水泳中に移住地長谷川商店主

水泳中に心臓麻痺、レヂストロで不慮の死...

エビオス advertisement with product image and text.

洋裁の勉學 is 實力養成校... 信愛洋裁技藝學校 advertisement.

皮細工、日本土産に好適... 弓場井製造所 advertisement.

大屋政道 advertisement with contact information.

大阪商船 發着廣告 advertisement with shipping schedule table.

各種高級 小型カメラ advertisement for a camera.

森本實之義 advertisement for a person.

信愛洋裁技藝學校 advertisement.

大屋政道 advertisement.

大阪商船 發着廣告 advertisement.







## Londres bombardeada durante 8 horas consecutivas

A mais violenta e prolongada ofensiva aérea contra a capital inglesa desde o início da guerra — Importantes danos e considerável número de mortos

LONDRES, 17 (U. P.) — A mais prolongada e violenta ofensiva aérea da guerra foi lançada ontem à noite, contra esta capital, durante oito horas consecutivas, pela aviação alemã.

Os incursores lançaram toneladas de bombas de grande poder explosivo e incendiárias sobre todos os objetivos da cidade numa proporção e de uma forma que superou em magnitude, o ataque do dia 29 de Dezembro do ano findo, o qual até ontem, tinha sido o mais demolidor de todos os bombardeios.

Admite-se oficialmente que os danos são importantes e que o

número de vítimas é considerável.

LONDRES, 17 (U. P.) — Os Ministérios do Ar e da Segurança Pública distribuíram o seguinte comunicado: "Ontem à noite a aviação inimiga efetuou um ataque extremamente violento, visando esta capital.

O ataque começou às primeiras horas da noite e prolongou-se até quase o amanhecer.

As primeiras informações recolhidas esclarecem que o número de vítimas é elevado e que os danos materiais são consideráveis.

Também foi bombardeada outra região, principalmente a dos

condados interiores de leste e sudeste, mas em nenhum desses pontos as vítimas e os danos atingiram grande proporção. Foram abatidos dois aparelhos inimigos".

BERLIM, 17 (U. P.) — Um comunicado especial emitido pelo Estado Maior germanico diz o seguinte: "Numerosas esquadras de bombardeiros alemães desceram ontem à noite devastadores ataques contra Londres, durante 10 horas, em represália pelas incursões britânicas sobre Berlim, de 9 e 10 de Abril. O porto e os distritos industriais foram energicamente atacados".

## OS ALEMÃES ABRIRAM CAMINHO EM TERRITÓRIO GREGO

Questão de tempo o aprisionamento das forças britânicas que operam na Grécia

BERLIM, 17 (U. P.) — Os principais corpos do exército alemão abriam energicamente passagem em território grego, na manhã de hoje, um pela costa do mar Egeu e outro pelo lado central.

Nos círculos autorizados afir-

ma-se que é apenas uma questão de tempo o aprisionamento das forças expedicionárias britânicas que operam na Grécia.

ATENAS, 17 (U. P.) — Segundo os círculos bem informados a batalha da Grécia prossegue com extraordinária violência,

após o segundo dia do seu início.

Não se registraram acontecimentos decisivos.

Ainda que os alemães fizessem alguns pequenos avanços, não entraram ainda em contacto com a principal linha de defesa e em geral, considera-se a situação como sendo favorável para os aliados.

LONDRES, 17 (U. P.) — Urgente — Anuncia-se que os alemães lançaram todo o peso de suas forças contra as linhas britânicas, na Grécia, as quais se estendem desde o Monte Olimpo até o oeste, com o objetivo de investir através as planícies de Tesalia e chegar ao importante entroncamento de Larissa.

plamente questão de tempo o fato de que as referidas forças fiquem cercadas e aniquiladas.

Ao mesmo tempo comenta-se hoje a mais recente capitulação iugoslava que elevou a cinco o número de unidades do interior que já se renderam.

A última unidade que agora capitulou é o segundo exército sérvio que capitulou exatamente dez dias depois de iniciada a "blitzkrieg" alemã no Balcãs.

Nos mesmos círculos recorda-se que o quarto exército do norte, com o seu comando em Zegreb, foi o primeiro a capitular, enquanto que o terceiro exército da Macedônia, o quinto de Nish e o primeiro de Novisava foram destruídos.

Diz-se que as guerrilhas desorganizadas nas montanhas, é a única resistência que as forças alemãs terão que enfrentar na atual campanha com a Iugoslávia.

## A Alemanha estaria disposta a outorgar uma paz honrosa à Grécia

MADRID, 16 (U. P.) — Informa o correspondente da agência "E. F. E.", em Berlim, que a Alemanha está disposta a outorgar uma paz honrosa à Grécia.

Acrescenta o mesmo correspondente que os alemães reconhecem o heroísmo dos gregos e que se estes, depois dos britânicos se retirarem do território helênico, solicitarão a paz, esta lhes será concedida, com todas as honras militares.

"Isto — diz ainda o informante — não pode ser aplicado aos sérvios, cuja derrota foi total e nenhuma mercê podem esperar do vencedor. Os sérvios serão considerados como uma espécie de poloneses do sul".

Declara ainda que, na nova ordem balcânica, serão contempladas as exigências nacionais de todos os povos, excepto os sérvios.

## A zona de Pireo intensamente bombardeada pela "Luftwaffe"

70.000 toneladas de navios aliados destruídos

ATENAS, 16 (U. P.) — Um comunicado do Ministério da Segurança Pública informa que os aviões alemães, em sucessivas esquadras, bombardearam e metralharam ontem diversos pontos, na zona do Pireo, e a região sudeste da costa de Salônica, "sem causar vítimas, nem danos apreciáveis".

Os aviadores germanicos ar-

remessaram bombas e minas magnéticas, junto à costa do Pireo, as quais foram localizadas pelas autoridades correspondentes.

BERLIM, 16 (U. P.) — Em esferas bem informadas revelou-se hoje que a "Luftwaffe", desenvolvendo seu programa de impossibilitar a evacuação das forças britânicas, na Grécia, avariou seriamente e possivelmente destruiu, no transcurso das últimas 24 horas, diversos navios inimigos, num total de 60.000 a 70.000 toneladas, no porto de Pireo.

Nas mesmas esferas, decla-

rou-se que o porto de Pireo se encontra abarrotado de navios afundados ou incendiados, tendo a maioria das facilidades portuárias sido arrasada ou bastante danificada.

BERLIM, 17 (U. P.) Em círculos autorizados alemães declarou-se hoje que a destruição das forças britânicas na Grécia está de acordo com os planos pre-estabelecidos e que é sim-

## Reina confusão na Iugoslávia

O general Simovich teria sido deposto — Ignorado o paradeiro do rei Pedro

BERLIM, 16 (U. P.) — Informa-se que o general Simovich foi deposto, como chefe do governo iugoslavo e substituído por outro general. Contudo, até agora não foi possível obter-se uma confirmação dessa notícia.

Outros membros do governo do rei Pedro.

Nas esferas autorizadas,

acrescenta-se que o ex-primeiro ministro sr. Cvetkovitch, foi encontrado encarcerado, pelos alemães, sendo posto em liberdade. Entretanto, ainda não foram localizados o ex-ministro do Exterior, sr. Markovitch e outros membros do governo que aprovaram a adesão da Iugoslávia ao pacto tripartite.

## Tem caráter econômico...

STAMBUL, 17 (T. O.) — "O povo turco, não obstante estar próximo do teatro da guerra, vive em completa calma" — escreve o deputado turco Benidische, em artigo inserido no jornal "Son Telegraph". Referindo-se às medidas de evacuação desta cidade e de várias outras, pela população civil, acentua o articulista que as mesmas têm especialmente caráter econômico, posto que muitas pessoas, que vivem de limitadas rendas, não mais possam assegurar a sua subsistência nas cidades onde o custo da vida acusa um crescente aumento. Dessa forma a evacuação realiza-se apenas para assegurar a existência econômica daquelas pessoas.

## A Pérsia arma-se

ROMA, 16 (U. P.) — Num despacho procedente de Beirut, "Il Messagero" informa que o governo da Pérsia recebeu, recentemente, da Alemanha, uma consignação de equipamento mecanizado.

Acrescenta "Il Messagero" que uma delegação de técnicos e militares teutos também se dirige para Teheran, com o propósito de instruir os oficiais do Iran, no emprego de "tanks" e carros blindados.

## Pessimistas os jornais ingleses!

STOKOLMO, 16 (T. O.) — A imprensa inglesa julga a situação no Mediterrâneo Oriental, especialmente na África do Norte, com muito mais pessimismo do que as esferas oficiais, quando se têm os comunicados oficiais.

O "New Chronicle": "A Inglaterra não pode perder a batalha na África. Seria o co-

meço do fim!"

O "Daily Express" escreve: "Suez está em perigo. A Grécia, afinal de contas, pode ser perdida, mas Suez não, pois significaria a derrota completa e dolorosa no Oriente Próximo. Que faz Wavell?"

O "Daily Mail" diz: "Nenhum comunicado burocrático pode salvar a Inglaterra!"

## O rompimento das relações bulgaro-iugoslavas

Foi motivado pelos ataques não provocados feitos pelas forças da Iugoslávia

SOFIA, 16 (U. P.) — Na declaração oficial anunciando a ruptura das relações diplomáticas com a Iugoslávia, a qual foi notificada à legação deste último país, nesta capital, o governo de Sofia alega ter adotado essa atitude, em consequência dos ataques não provocados aos postos fronteiriços búlgaros, das incursões aéreas contra ci-

dades abertas búlgaras, causando mortos e feridos entre a população civil, inclusive mulheres e crianças e sobretudo pelo fato de que membros da legação iugoslava mantiveram contacto com elementos subversivos, na Bulgária, facilitando-lhes manifestos de propaganda subversiva impressos na Iugoslávia.

## Os jornais de Tokyo falam sobre a eficácia do Pacto Nipo-Russo

TOKYO, 17 (D.) Referindo-se à significação e à eficácia do Pacto Nipo-Soviético os jornais de Tokyo tecem os seguintes comentários:

Kokumin — "O novo pacto recebeu o nome de "Pacto de Neutralidade", mas na realidade é um pacto de não-agressão que inclui também o respeito à integridade territorial do Manchukuo e Mongólia Exterior. É um tratado que vem reforçar o Pacto Triplice e marca uma nova fase na política diplomática do "eixo".

Asahi — "Os governos de Chungking e dos EE. UU. esperavam muito da pressão soviética sobre o Japão, mas tudo isso fracassou a olhos vistos".

Yomiuri — "A U. R. S. S. já assinou com vários outros países pactos semelhantes ao assinado com o Japão. Deve-se interpretar mais como sendo uma medida diplomática dos russos do que como demonstração de

amizade para com o Japão".

Tokyo Nichi-Nichi — "Depois da assinatura da Aliança Triplíce, o Japão já conseguiu um estúpido êxito na mediação do conflito entre a Índia-China Francesa e a Tailândia e agora mais um grande êxito se conseguiu com a assinatura do Pacto de Neutralidade Nipo-Soviético. Tem sido gran-

de e eficiente a luta diplomática do atual Gabinete, chefiada pelo príncipe Konoye. O príncipe Konoye aguarda o regresso da ministro do Exterior Matsuoka para traçar novos planos de sua política externa, afim de apressar o estabelecimento da Esfera Asiática de Prosperidade Comum".

## OS CANHÕES ALEMÃES DE LONGO ALCANCE VOMITAM FOGO CONTRA DOVER

DOVER, 16 (U. P.) — Pela primeira vez, em mais de uma quinzena, os canhões alemães de longo alcance, assestados na costa francesa, romperam uma descarga, hoje, contra Dover, através do Canal da Mancha.

O canhoneio iniciou-se por volta das 11 horas. Os projeteis caíram dentro da zona de Dover, com intervalos de quatro minutos. O ataque durou mais de meia hora.

Até o momento ignora-se se o canhoneio causou danos.

## A "Raf" bombardeou NOVO EXERCITO CHINÊZ

LONDRES, 17 (U. P.) — Urgente — Anuncia-se oficialmente que as Reais Forças Aéreas atacaram, com êxito, ontem à noite, diversos objetivos de importância militar, situados ao norte do Reich.

NANKIN, 17 (T. O.) — O jovem exército de Wang Jingwei que ainda encontra-se em formação, foi empregado pela primeira vez num combate com franco-atiradores de Chungking da margem esquerda do Yangtze. Dos pormenores da luta ainda não se teve notícias.



# ESPERA-SE ADOPTAR UMA POLITICA UNIFORME NA AQUISIÇÃO DOS NAVIOS RETIDOS NA AMERICA

### Declarações do embaixador do Brasil, sr. Carlos Martins

WASHINGTON, 16 — O sr. Carlos Martins, embaixador do Brasil, conferenciou hoje com o sub-secretário sr. Sumner Welles, e declarou, em seguida, à imprensa, que nessa entrevista trocaram pontos de vista gerais sobre a proposta feita pelo senhor Guani, ministro do Exterior do Uruguai, no sentido de que todas as nações interessadas adotassem uma política comum em relação à aquisição dos navios alemães, italianos, dinamarqueses e outros, que se encontram retidos nos portos de diversas repúblicas americanas.

O sr. Carlos Martins declarou que nada mais podia acrescentar. Disse, contudo, que nesses

dois ou três dias pode haver algum desenvolvimento concreto e, então poderá estender mais os seus comentários.

Lembra-se, a propósito, que essa mesma questão fora discutida na sessão plenária extraordinária do Comitê de Conselho Econômico Financeiro Inter-Americano, reunido a pedido do sr. Sumner Welles.

O embaixador Martins disse ainda, que tratará com o sub-secretário sr. Sumner Welles, da questão referente ao algodão, cujos estudos preliminares haviam sido iniciados há algum tempo e que, conforme se esperava, entraria em breve numa fase mais ativa.

O embaixador do Brasil discutiu ainda a questão das exportações e dos embarques dos Estados Unidos para o Brasil.

DECLARAÇÕES DO SR. CORDELL HULL

WASHINGTON, 16 — O sr. Cordell Hull declarou hoje, em entrevista à imprensa, que o governo norte-americano está estudando e discutindo a proposta feita há dias pelo chanceler do Uruguai, sr. Alberto Guani, para que seja adotada uma política uniforme por todos os países americanos a respeito dos navios estrangeiros surtos em portos americanos em consequência da guerra européia.

## Regressou o Inter-ventor paraibano

RIO, 16 — No avião da carreira, regressou, hoje, ao seu Estado o sr. Rui Carneiro, inter-ventor da Paraíba. Ao seu embarque compareceram autoridades, amigos e numerosos elementos da colônia paraibana. Durante o tempo em que aqui permaneceu, o sr. Rui Carneiro tratou de importantes assuntos da sua administração, ligados à esfera federal.

# Nove aviões decolaram da cidade do Mexico

## para socorrer as vítimas do violento terremoto que assolou o país

### Declarações de diplomata colombiano

MEXICO, 16 (U. P.) — Nove aviões decolaram desta capital conduzindo médicos, enfermeiros e medicamentos a Colima, a cidade que, segundo os informes aqui chegados, ficou semi-destruída pelo terremoto, que afetou uma extrema zona, abrangendo os Estados de Colima, Jalisco, México, Guanajuato, Tlaxcala, Puebla, Michoacán e Aguascalientes.

De Colima, foi pedido socorro por rádio-telefônica, depois do segundo tremor de terra, registrado ontem às 19.45 horas. O governador do Estado informou que grande parte dos habitantes da cidade de Colima, que conta 30.000 almas, foi morta ou ferida. Ruidos surdos e prolongados continuaram sendo

ouvidos sob a terra, durante muito tempo, depois do anoitecer, enquanto o vulcão prosseguia lançando lavas, as quais incendiaram os bosques adjacentes e uma chuva de cinza caiu em toda a zona, obrigando os habitantes locais a fugir aterrorizados.

MEXICO, 16 — (U. P.) — Entrevistado pelo correspondente da "United Press", para colher suas impressões sobre o terremoto registrado ontem em diversas partes do território mexicano, o ministro colombiano nesta capital, sr. Swadzki declarou o seguinte:

"O tremor de terra me surpreendeu em uma rua do centro da cidade, causando-me o consequente alarma. O abalo

sísmico não produziu no México os efeitos que se verificam em outros países. Aqui, os edifícios se mexem suavemente, devido à propriedade do subsolo, pois o México era um grande lago. Os efeitos foram pequenos, na cidade do México, si se levar em consideração o tempo de quatro minutos que durou o terremoto; porém, em Colima o desastre foi enorme. A cidade do México movia-se como um navio, suave e ritmicamente. Graças ao subsolo, a capital não ficou sepultada sob os escombros. Pouco depois, percorri a cidade, observando os estragos que o tremor de terra tinha causado".

# PROVIDENCIAS TOMADAS CONTRA A FALTA DE TRANSPORTE DE MADEIRAS PARA O EXTERIOR

RIO, 16 — O sr. Manoel Henrique da Silva, presidente do Instituto Nacional do Pinho, teve um entendimento com a comissão da Marinha Mercante a propósito da falta de transporte de madeira para a Argentina, África do Sul e Estados Unidos.

A comissão de Marinha Mercante se prontificou desde logo

a colocar mais um navio mensalmente na linha do Prata, bem como destacar um cargueiro para uma viagem extraordinária à África do Sul, em princípio do próximo mês de Maio.

Resolveu, ainda, conceder facilidade de praça para a madeira destinada à América do Norte,

te, nas linhas regulares daquele destino. Atualmente, estão armanezadas nos portos de Paranaguá e São Francisco aproximadamente 11 mil toneladas de taboados e caixaria de pinho, aguardando embarque para a União Sul Africana, mercadoria essa já vendida e sujeita pelos contratos a prazos determinados de entrega.

## Proxima visita do sr. Salgado Filho a S. Paulo

Informações colhidas pela reportagem da Agencia Nacional tornam certo que a viagem — já anunciada — do dr. Salgado Filho, Ministro da Aeronautica, a esta capital, foi adiada por motivos de força maior, para o próximo dia 24.

Assim, só nessa data, s. excia. visitará São Paulo.

## Festa de beneficência em Lisboa

LISBOA, 17 (U. P.) — Uma comissão de senhoras portuguesas, presidida pela embaixatriz do Brasil, sra. Araujo Jorge está organizando uma festa de beneficência que terá lugar no próximo dia 3 de Maio, em homenagem ao Brasil.

O escritor João de Barros fará uma conferência sobre o descobrimento do Brasil.

## Homenagem ao dr. Ademar de Barros pela passagem de seu 3.º ano de governo

As associações representativas do comércio, da indústria, da lavoura e das profissões liberais de São Paulo, deliberaram prestar uma justa homenagem ao sr. dr. Ademar de Barros, por motivo da passagem do 3.º aniversário de sua gestão à frente da Interventoria Federal em São Paulo.

Constituirá essa homenagem num almoço que será oferecido a s. excia. no próximo sábado, dia 26, em local que será oportu-

TOKYO, 17 (D.) — O Departamento de Estatísticas do Gabinete publicou hoje o resultado do recenseamento nacional realizado a 1 de Outubro do ano passado. O resultado do censo veio demonstrar o pujante progresso da nação, tendo aumentado grandemente a popula-

# 105.226.101 a população do Império Nipônico

### Foi publicado o resultado do recenseamento nacional de 1940

Território de Kwantung	
Homens . . . . .	781.592
Mulheres . . . . .	585.742
Total . . . . .	1.367.334
Ilhas dos Mares do Sul	
Homens . . . . .	72.540
Mulheres . . . . .	58.617
Total . . . . .	131.157
Coreia	
Homens . . . . .	12.266.230
Mulheres . . . . .	12.060.097
Total . . . . .	24.326.327
Formosa	
Homens . . . . .	2.970.655
Mulheres . . . . .	2.901.429
Total . . . . .	5.872.084
Karafuto (Sakalina)	
Homens . . . . .	239.835
Mulheres . . . . .	175.056
Total . . . . .	414.891

ção de todo o Império. Em comparação com o censo realizado em 1937, aumentou de 6.300.000 almas a população do Império, contando 105.226.101 almas. Eis o resultado geral do censo demográfico:

**Japão propriamente dito**  
 Homens . . . . . 36.566.010  
 Mulheres . . . . . 36.548.298  
 Total . . . . . 73.114.308

O incremento da indústria bélica e outras indústrias aumentou a população das cidades. A população das 6 cidades principais é como se segue:

Tokyo . . . . . 6.778.000  
 Osaka . . . . . 3.252.000  
 Nagoya . . . . . 1.328.000  
 Kyoto . . . . . 1.029.000  
 Yokohama . . . . . 968.000  
 Kobe . . . . . 967.000

# Técnicos do Conselho Nacional de Pesquisas dos EE. UU. chegaram ao Rio

RIO, 16 — Viajando por via aérea, chegaram ontem, à tarde, a esta Capital os membros do Conselho Nacional de Pesquisas dos Estados Unidos, que realizam, presentemente, uma visita às principais nações do continente sul-americano, com o objetivo de estudar as possibilidades de um maior desenvolvimento industrial e do estreitamento das relações comerciais entre os diversos países da América. Os visitantes, que vieram diretamente de Buenos Aires,

foram recebidos no aeroposto Santos Dumont, por inúmeras personalidades de destaque em nossos meios financeiros e econômicos e pelos representantes de várias entidades desta Capital. A excursão dos membros do Conselho Nacional de Pesquisas dos Estados Unidos é chefiada pelo sr. Maurice Holand, diretor da Divisão de Engenharia daquele Conselho.

Além do sr. Maurice Holand, chegaram ontem ao Rio os srs. Frederick Arlington Williams,

Bert Hanpdein White, Herbert Hannonschel, Alexander Marques Hamilton, Herbert Guanisseld Fraham, Daniel Hellis Doutry, Raymond Charles Mauer, Herman A. Metzger e Charles Edvayg Egan, todos líderes dos meios comerciais e industriais dos Estados Unidos.

A missão norte-americana se compõe de 21 membros, devendo os demais chegarem hoje, à tarde, a esta Capital, também em avião, procedentes de Buenos Aires.

## EXECUTADA COM EXITO A POLITICA DE NACIONALIZAÇÃO NO BRASIL

RIO, 16 — Informa o Ministério da Agricultura que a política de nacionalização posta em prática pelo governo vem sendo executada com êxito, sobretudo nos núcleos de população estrangeira.

Cooperando para a consecução desse objetivo, aquele Ministério mantém 74 escolas, nos 12 núcleos coloniais sob sua jurisdição.

Em relatório apresentado ao ministro Fernando Costa, o sr. José de Oliveira Marques, diretor da Divisão de Cerras e Colonização se refere ao desenvolvimento escolar desses núcleos, salientando serem realmente auspiciosos os resultados obtidos. Informou que o número de matriculas já se eleva a 3.096 alunos, com a frequência permanente de cerca de 2.500.

## Seria declarado feriado o dia 19 de Abril

RIO, 16 — Noticia-se que, emprestando excepcional relevo ao dia 19 de Abril, data da Juventude Brasileira e aniversário natalício do chefe da nação, os interventores de todos os Estados do Brasil, o governador de Minas e o prefeito do Distrito Fe-

deral, pretendem declará-lo feriado.

INSTITUIDO NO RIO O DIA DA JUVENTUDE BRASILEIRA

RIO, 16 — O prefeito Henrique Dodsforth assinou hoje um decreto instituindo o dia 19 de Abril como o "Dia da Juventude Brasileira".

## As comemorações do dia 19 de Abril no Palácio Tiradentes

RIO, 16 — Entre as grandes comemorações do aniversário natalício do presidente Vargas, destaca-se a sessão cívica que será efetuada no próximo sábado, às 17 horas, no recinto do Palácio Tiradentes.

Durante essa sessão, que será presidida pelo ministro Francisco Campos, usarão da palavra

os generais Góes Monteiro, chefe do Estado Maior do Exército, sobre a significação nacional da data de 19 de Abril e aspectos marcantes da obra política do chefe da nação, e o sr. João Neves da Fontoura, que proferirá uma interessante conferência intitulada "A mocidade de Getúlio Vargas".

## Os EE. UU. adquirirão carne congelada no Brasil

WASHINGTON, 16 (U. P.) — O chefe do Departamento de Compras da direção da produção, sr. Donald Nelson, declarou hoje aos jornais que o seu departamento adquirirá, dentro em breve, carne congelada no Brasil e no Uruguai, além das compras que serão feitas na Argentina, pois que, na sua opi-

nião, dentro de pouco tempo estará esgotada a capacidade de produção de carnes similares nos Estados Unidos.

O sr. Nelson acrescentou que o consumo de carne pelo exército aumentará sensivelmente apenas sejam iniciadas as manobras.

## Feriado nacional o dia 21 de Abril

RIO, 16 — Segunda-feira próxima, 21 de abril, dia em que se reverencia a memória do protomartir da Inconfidência, Tiradentes, é feriado nacional.

Revogado de uma feita o feriado, foi ele, mais tarde, restaurado pelo governo federal.

## Visita do dr. Ademar de Barros à "Exposição do Estado Novo"

Ontem às 9 horas, o sr. Interventor dr. Ademar de Barros visitou o recinto da Exposição do Estado Novo em companhia de todos os Secretários de Estado, do diretor geral do Departamento de Imprensa e Propaganda e do diretor da Divisão de Propaganda e Rádio-Difusão do D. E. I. P.

## Aumentada a zona de bloqueio

### O comunicado do comando da esquadra japonesa nas águas chinesas

SHANGHAI, 17 (D.) — O comando das forças imperiais nas águas chinesas compreendidas na zona de bloqueio divulgou hoje o seguinte comunicado. O comandante da esquadra japonesa cientificou as autoridades estrangeiras sobre o mesmo comunicado, por intermédio do consulado japonês de Shanghai. O comunicado em questão é do seguinte teor:

1.º — O comando japonês ex-

pediu um comunicado datado de 15 de Julho de 1940, estabelecendo como zona de bloqueio as regiões do golfo de Hangtcheu, proibindo com isso, o movimento de vapores nessa zona.

O comando da esquadra japonesa nas águas chinesas faz saber que foram acrescentadas várias outras regiões na zona de bloqueio. Outrossim, essa nova medida entrará em vigor a partir de 20 de Abril de 1941.

## Tão importante como a triplice aliança

NANKIN, 14 (D.) — Os círculos governamentais de Nankin, consideram o pacto niposoviético de neutralidade tão importante como a aliança triplíce, capaz de influir poderosamente na política internacional. Especialmente a posição do Japão, em relação à Inglaterra e

Estados Unidos foi reforçada, ao passo que o regime de Chungking se encontra em situação cada vez mais crítica. Os mesmos círculos dão grande importância ao movimento de política internacional, decorrente do pacto.



# Curiosas invenções para as forças armadas americanas

Os inventores norte-americanos, acossados pela febre armamentística, estão apresentando diariamente cerca de 150 invenções e melhoramentos, deixando perplexos os funcionários dos departamentos Técnicos Centrais do Exército e da Marinha.

Todavia, mais de 75% desses projetos tratam de assuntos verdadeiramente infantis.

O restante, contudo, tem qualquer utilidade prática e não se pode recusar.

Em vista disso, as forças armadas já deliberaram instituir um departamento para exame dessas invenções.

O clichê, na página japonesa, demonstra uma das mais originais descobertas.

Em cima, a metralhadora portátil que serve para disparar to-

da e qualquer espécie de projétil.

No meio, o submarino de grande velocidade destinado à travessia dos grandes oceanos, que fracassou redondamente na sua primeira experiência e foi desclassificado.

Em baixo, cimento especial para construção de trincheiras que se consolida em menos de cinco horas. Este foi aceito.

Parece que este ano o algodão não vai alcançar preço alto — tal parece ser a opinião corrente. Entretanto é natural que todos os produtores desejem o mais alto preço, mesmo que seja de cem réis a diferença.

O disponível, no começo de Abril, subiu a 44\$000, ou seja 13\$000 a arroba do algodão em ramos.

Os agricultores ficaram entu-

siados, mas o preço baixou novamente até 41\$000 e 40\$000. Entretanto no dia 14 subiu outra vez para 43\$000, animando o mercado algodoeiro. No dia seguinte à tarde, porém, já se iniciava a queda para 42\$000 e a 16 chegou a 41\$500.

Como se vê há uma oscilação muito rápida no preço do algodão.

Quais as causas que influem

nessa oscilação? Uma pessoa entendida no assunto nos declarou o seguinte:

“A alta que se verificou agora foi em consequência de ter sido conseguido praça marítima pela entrada em serviço de navios provisórios americanos na linha canadense. Daí afilaram compradores estrangeiros como P. P. William, Esteves, Macfaden, Dickson, etc. E’ portanto, considerado fenômeno passageiro. De qualquer maneira a falta de mercados fixos e de praça marítima causam a diferença de 26\$000 a 27\$000 com o preço do algodão americano.”

Uma diferença desnecessária. Por isso qualquer motivo favorável reflete imediatamente no preço. Os agricultores devem aproveitar essas ocasiões, pois se esperam alta maior podem perdê-las. Segundo os círculos entendidos, o preço deste ano ficará entre 40\$ e 43\$000 ou seja 11\$ a 12\$000 o algodão em caroço.

Não é possível, a inferir pelos motivos acima apontados, que o algodão brasileiro tenha alta maior do que a já observada. Penso que é aconselhável os produtores vender o algodão quando o preço do algodão americano.”

# Eis o Japão de agora

(Para o “Brasil Asahi”) por Mario Miranda

Disse-me, um dia, um amigo japonês: “Seu sapato não briga?”

Não atinei com a brincadeira, apesar da risada do rapaz.

— Então — continuou — é feito de couro de porco e sola de baleia...

De outra feita, convidei um japonês, que no momento me fôra apresentado para tomar um café. Sabendo-me brasileiro, disse-me:

— Não poderemos tomá-lo, foi a sua resposta, ainda que já entrando na confeitaria. Sim — prosseguiu, em vista da minha surpresa, “coffee” se pode tomar, isto é, misturado com feijão soja ou outra coisa, e não café, que vem do Brasil, agora inexistente à venda...

Isto porque, no Japão só se diz café com palavra inglesa, e ainda mais, com a pronúncia japonesa: “cohii”.

Atualmente, todos os artigos de uso interno para os cidadãos do país são de matéria artificial. Mas, pouco a pouco, melhorando como está a “steaple-fibre” e seus produtos congêneres é muito difícil se reconhecer a qualidade de material artificial. De fato, os sucedaneos têm menos duração e resistência; pelo preço, porém, compensa a compra e ajuda a situação pela qual se prima o país.

Ha, por exemplo, artigos feitos de casca de árvore “kiri” (paulônia), que imitam perfeitamente, com a mesma atração e durabilidade a caríssima camurça.

E os divertimentos em Tokyo? Com a necessária e compreensível campanha espiritual, as diversões exageradas, que não condiziam com os preceitos da Nova Estrutura, já não existem. Contudo, os divertimentos necessários para o descanso do espírito público, após sua intensa, trabalhosa, vida quotidiana, que caracteriza o japonês, recebem, todos os dias, multidões que se acotovelam para ganhar um lugar, onde possam apreciar a boa música, um cinema, um “jornal”. Percebe-

se, destarte, que o japonês é, sem dúvida, um amante fervoroso da arte em todas as suas expressões. Qualquer festival, sessão litero-musical, horas antes do seu início está com suas acomodações repletas. Ainda outro dia, no primeiro dia da semana, do programa da artista Rikolan, intérprete da música e dança, amontou-se frente ao teatro, nada menos do que uma multidão de 100.000 pessoas, a exigir um serviço especial de polícia, ao último momento, o que deu motivo a críticas e conselhos dos jornais e autoridades.

Pelo que dizem, este inverno é todo especial. Pouco tem nevado em Tokyo, e não muitos, os dias de intenso frio. Os tokyenses procuram, então, as cidades das cercanias da Capital, de região montanhosa, onde se possa fazer esquí. Aos sábados de manhã, o movimento nas estações é formigante. Moças e rapazes, adultos, trazendo nas costas sua mochila e apetrechos de patinação vão em busca de Akakura, Nikko, ou outra cidade apropriada para os esportes de inverno.

Com esse estado de animo, esse movimento jubiloso e costumeiro do japonês, pode um estrangeiro ter a sensação da existência de guerra, aqui no Japão?

Imiscuindo-me nesse viver nipônico, eu procuro compartilhar das ações e manifestações do dia-a-dia do atual Nippon. Aqui de Tokyo, me arrasto, às vezes, com as multidões, pelas interessantes “onsen”. Yugawara, Shiohara, Atami, Kusatsu, todas essas termas, com inúmeros hotéis, onde se aquece numa promiscuidade de velhos e crianças, rapazes e moças, nos “ofurôs” públicos, ou nas “uchiyuis” dos hotéis, variados em sua composição química, ótimos para descansar e cuidar do físico, si bem que, nas primeiras vezes me escalei um pouco naquela fervedura...

(Continua)

# O 3.º aniversário do governo no Ademar de Barros

Está sendo preparado, com o carinho que o acontecimento exige, o programa comemorativo da passagem do 3.º aniversário da administração Ademar de Barros.

Governo de realizações, que se tem salientado, principalmente, pelas obras eminentemente grandiosas com que tem dotado São Paulo — São Paulo Capital e São Paulo Interior — é natural que nos festejos organizados para assinalar o terceiro marco dessa salutar administração figurem, em maior número, cerimônias de inauguração de novas obras e de conclusão de outras que hão de dar

ao Estado um surto ainda maior de progresso.

O programa, que vai ser desenvolvido nos dias 24, 25, 26 e 27 do corrente, é o seguinte:

DIA 24 — às 9 horas — Inauguração do concreto da “Via Anchieta”; às 11 horas — Inauguração do Instituto Astronômico e Geográfico, na Água Funda; às 14 horas — Inauguração do novo prédio da 11.ª Delegacia de Polícia, em Sant’Ana.

DIA 25 — às 10 horas — Inauguração do prédio do Departamento de Zoologia; às 17 horas — Entrega da Avenida 8 de Julho; às 21 horas — Inau-

guração do Instituto Electrotécnico, na Escola Politécnica.

DIA 26 — às 10 horas — Inauguração do Auditorium da Escola Normal “Caetano de Campos”; às 18 horas — Inauguração da Avenida Ipiranga. Iluminação da Avenida Ipiranga.

DIA 27 — às 9 horas — Missa na Fraça da Sé; às 11 horas — Lançamento do marco da eletrificação da Estrada de Ferro Sorocabana; às 14 horas — Inauguração da Exposição do Estado Novo; às 16 horas — Parada Militar e desfile de atletas; às 20 horas — Encerramento do Congresso de Saúde Escolar; às 21 horas — Recepção Oficial em Palácio.

# Planadoras japonesas



As moças do Japão, de ha muito deixaram de ser o que eram. Destemidas e entusiasmadas as aviadoras estão preparando o terreno para a vinda dum a mulher japonesa. As progressistas jovens do Japão estão mostrando aos moços modernos que elas, também, podem cortar os céus até mesmo como pilotos de planadores.

# Luta de longa duração

(Fatos diversos)

Seguiu para o Rio de Janeiro, por via aérea, o sr. Hikoma Udhara, agente da Companhia de Terras do norte do Paraná.

Conforme notícias, a competição de “Sumô” de Araçatuba será realizada naquela cidade, no próximo dia 27 de Maio. Os membros da comissão organizadora estão trabalhando ativamente.

O sr. Kazuo Shibuzawa, neto do falecido visconde Shibuzawa, notável pianista e excelente tocador de harmonia, pertencente à Associação Rádio-Difusora Colômbia de Nova York, que seguiu há poucos dias para Buenos Aires está promovendo um curso de piano e de harmonia.

O sr. Guishu Kudo realizou uma conferência no auditório do Colégio Araçatuba, no dia 10 próximo passado, sob o tema: “A atualidade japonesa” e deixou viva impressão na assistência que encheu por completo o amplo salão.

# Intercambio esportivo Nipo-Brasileiro

## Próxima vinda de nadadores japoneses

E’ do conhecimento de todos que o estreitamento das relações nipo-brasileiras por intermédio do esporte tem-se incentivado muito ultimamente. Há dias uma pessoa desta capital recebeu a seguinte interessante carta do sr. Saito, que já por duas vezes esteve aqui no Brasil, representando a natação japonesa:

“Ficamos muito gratos pelo gesto dos círculos esportivos do Brasil, enviando-nos aqueles atletas, chefiados pelo senhor Inoue. Outrossim, somos obrigados a confessar que os atletas em questão superaram a nossa expectativa, quer na sua

força de vontade, quer principalmente nos seus resultados técnicos. A impressão desses atletas da colônia nos círculos nipônicos foi ótima e esperamos que isso tenha agitado também os japoneses residentes no Brasil. Fazemos votos que para a próxima vez sejam melhorados ainda esses resultados.

Soybomos que o capitão Padilha e outros líderes do esporte brasileiro planejam uma segunda visita de nadadores japoneses. Estamos deveras animados com semelhante notícia e desde já estamos preparando os nadadores”.

# Em São Paulo um ex-ministro argentino

## O visitante é um grande amigo do Japão

Chegou a bordo do “Arizona Maru”, paquete da O. S. K., que apertou no vizinho porto de Santos no dia 12 do corrente, o dr. Leopoldo Mello, ex-ministro do Interior da Argentina, acompanhado de sua esposa e uma filha.

O sr. Mello é um grande amigo do Japão. Representou o seu país na Conferência Pan-Americana realizada em Panamá e em Havana. Ali o ano passado s. excia. lecionou a cadeira de Direito Internacional na Uni-

versidade de Buenos Aires, sendo personalidade de grande projeção nos círculos intelectuais argentinos.

No dia de sua chegada em Santos, isto é, no dia 12, o sr. Mello hospedou-se no Atlântico Hotel, onde ofereceu um jantar ao comandante do “Arizona Maru” e ao sr. Kakeda, diretor da filial de O. S. K.

No dia 13, a convite do sr. Kakeda, a família Mello visitou os pontos pitorescos da cidade de Braz Cubas.

No dia seguinte, o sr. Mello veio para a capital paulista, achando-se hospedado no Esplanada Hotel.

O sr. Kakeda ofereceu um jantar à japonesa em sua residência, com a presença também do consul Naruse, o qual já conhecia o sr. Mello quando consul do Japão no Paraguai.

# Pereceu afogado quando nadava

## O fim trágico do sr. Hasegawa

O sr. Masao Hasegawa, de 32 anos de idade, natural da província de Fukui, e proprietário de uma casa de secos e molhados, na Fazenda Bastos, veio a São Paulo no dia 8 do corrente a negócios e no dia 12 dirigiu-se para Registro, afim de visitar seu sogro. Pelas 16 horas do dia 13, pereceu afogado, quando nadava no rio, a cerca de 500 metros da cidade, quando se banhava.

Os residentes japoneses e moços da localidade, sabendo da lamentável ocorrência, iniciaram imediatamente a procura do cadáver, que foi encontrado pelas 23 horas, cerca de 400 metros abaixo do local do desaparecimento. O enterro teve lugar no cemitério local, no dia 14.

# Em primeiro lugar

18-IV-1941

Ha tempo — faz muito tempo — perguntavam-me o que então não me atrevi a responder. Conhecidos, menos tímidos que eu ou mais maliciosos, responderam, dizendo das preferências individuais.

Agora, parece ser uma pergunta tão banal, que até os meninos de calças-curtas se propõem mutuamente. Uma pergunta do amigo Jyr ária possívelmente, que o Jyr se deve a “marcha do tempo”. Quem sabe se não é mesmo?

O leitor que é que responderia, se lhe perguntassem inesperadamente: “Encontrando uma mulher, o que você faria em primeiro lugar?” — *UJ*

# Nacionalização do futebol no Brasil

## Nenhum quadro brasileiro poderá jogar com mais de um jogador estrangeiro

RIO, 15 — O decreto assinado pelo presidente da República, instituindo a regulamentação dos esportes, em todo o território nacional, aborda um aspecto palpitante do futebol profissional, na parte referente à nacionalização das equipes. O artigo 32 estabelece que “nas exhibições desportivas públicas de profissionais, nenhum quadro nacional poderá figurar com mais de um jogador estrangeiro”. E no parágrafo único desse artigo abre a possibilidade de, em circunstâncias especiais, ser permitida a inclusão até o

máximo de três jogadores estrangeiros, estando essa licença a cargo do Conselho Nacional dos Desportos.

Trata-se de uma disposição que atinge diretamente alguns dos nossos mais importantes quadros de futebol, formados por grande número de jogadores estrangeiros.

Os clubes que mais sofrerão as consequências do novo decreto, serão o Vasco e o Fluminense. O grêmio cruzmaltino possui cinco profissionais estrangeiros e o tricolor seis. A seguir, vem o Bonsucesso com

# Programa de rádio das emissoras japonesas para o Brasil

A partir de Janeiro do corrente ano foi grandemente aumentada a potência de emissoras japonesas para o exterior. De fato, temos percebido a real diferença em comparação às condições de audição anteriores.

E’ o seguinte o programa de rádio-emissão para o mês de Abril corrente:

três, o Flamengo com dois e o America e o São Christovão com um cada.

O Botafogo, Bangu, e Madureira não possuem “players” estrangeiros em suas fileiras.

Programa de rádio para a América do Sul e Centra das estações: J. Z. J. — 11.800 klc. — 25 ms. 42; J. L. G. 4 — 15.105 klc. — 19 ms. 86.

Das 20 às 21,30 (dia anterior). Ordem das irradiações (hora japonesa):

8,00 — Abertura.

18,05 — Noticiário em espanhol e conferência.

8,35 — Noticiário em japonês.

8,55 — Noticiário em português, palestra em português ou parte musical.

9,25 — Despedida com o Hino Nacional japonês.

9,30 — Encerramento.

Para a America do Sul: Ds 6 às 7 horas (dia anterior) Estação: J. Z. J. — 11.800 klc. — 25 ms. 42.

Ordem das irradiações: 18,00 — Abertura.

18,05 — Noticiário em japonês.

18,35 — Noticiário em japonês.

18,45 — Noticiário em português.

18,55 — Despedida com o Hino Nacional japonês.

19,00 — Encerramento.



# Convênios firmados entre os governos brasileiro e argentino

RIO, 10 — Os últimos convênios firmados entre o Brasil e a Argentina, em Buenos Aires, e que foram hoje ratificados nesta capital, constituem atos de maior alcance para o intercâmbio mercantil entre os dois países, que, como disse o ministro Oswaldo Aranha, são fatos decisivos para a verdadeira comunhão argentino-brasileira.

Os convênios assinados em Buenos Aires foram, em sobre créditos para compra do excedente de produção e o outro sobre eliminação de sucedaneos dos gêneros alimentícios, facilidades para importação de tecidos brasileiros na Argentina e equilíbrio da balança comercial. E o ato ratificado nesta capital se refere à legalização de manifestos entre o Brasil e a Argentina.

O convênio sobre a compra de excedente de produção, firmado ante-ontem em Buenos Aires, pelo ministro interino das Relações Exteriores, da Argentina e pelo embaixador do Brasil, prevê que o governo argentino combinará com um dos bancos oficiais a abertura de um crédito até 50.000.000 de pesos argenti-

nos ao Banco do Brasil, para a compra de excedentes da produção argentina.

O governo brasileiro combinará com o Banco do Brasil a abertura de um crédito equivalente àquela importância em contos de réis, a um banco designado pelo governo argentino, para aquisição do excedente da produção brasileira. Os dois governos se comprometem a promover a compra de excedentes de produção que forem oferecidos pelo país vendedor até o limite da média de exportação de cada produto de um a outro país nos anos de 1938 e 1939, incumbindo aos dois bancos regular o equilíbrio do valor destas compras.

Os produtos que forem objeto destas operações serão vendidos à razão de 20% anualmente no mercado do país comprador, sendo proibida a sua reexportação, salvo autorização expressa do país vendedor. Verificando-se aumento de consumo capaz de absorver essa anuidade de 20%, será a mesma vendida pelo país comprador para suprir tal acréscimo de consumo. Em caso contrário a liquida-

ção do "stock" total será iniciada apenas quando se verificar a reabertura dos mercados de consumo mundial.

O segundo convênio assinado ante-ontem pelos mesmos plenipotenciários em Buenos Aires, trata dos seguintes assuntos: eliminação de sucedaneos dos gêneros alimentícios, obrigando-se os dois países a tomar as medidas necessárias à redução gradual do emprego desses sucedaneos, de forma a ficar assegurado que, a partir de Janeiro de 1944 tais gêneros de alimentação sejam entregues ao consumo de acordo com os tipos e especificação do país de origem; facilidades para importação de produtos brasileiros no mercado argentino, concedendo a Argentina facilidades amplias para a entrada e venda, no mercado argentino, de tecidos e outros produtos industriais do Brasil, procurando promover, dentro do possível, o aumento das compras de ferro e aço e seus produtos, madeiras e borracha. Em relação à importação de tecidos de algodão (inclusive os tecidos para sacos denominados "lienços para bol-

tas) ficou conveniado que, em 1941, serão concedidas licenças prévias de cambio, no valor mínimo de 18.000.000 que, em 1942 será de 22.000.000 de pesos argentinos.

Em cada um dos dois anos mencionados a Argentina promoverá a importação, pelos meios mais indicados, de tecidos próprios para sacos até o valor de 8.000.000 de pesos da Argentina.

A terceira parte desse convênio tem como objetivo corrigir os desequilíbrios do intercâmbio comercial entre os dois países, por meio de aumento das importações do país credor, e não pela diminuição de suas exportações, aumentando, assim, de forma reciprocamente satisfatória esse intercâmbio, para o que ficou conveniado que no caso de haver saldo de balança comercial em cada um dos próximos três anos, superior a 50.000.000\$ ou o equivalente em pesos argentinos. O país credor deixará em depósito sem juros no país devedor a importância excedente da referida cifra de 50.000.000\$ com o seu equivalente em pesos argentinos, obrigando-se a só utilizar esse depósito na compra e importação de produtos agro-pecuários ou industriais originários do país devedor. O prazo a que se refere essa cláusula pode ser renovado por comum acordo.

# Arrecadação do imposto de vendas e consignações aumentou de 15 por cento no primeiro trimestre deste ano. Atingiram a 28.070:262\$200 os recolhimentos do mês de Março ultimo

Os resultados da arrecadação do imposto de vendas e consignações no Estado acabam de nos ser transmitidos pela Diretoria de Arrecadação do Departamento de Receita da Secretaria da Fazenda. Os recolhimentos atingiram a respeitável soma de 28.070:262\$200.

Sem solução de continuidade, pois, cresce a arrecadação. Cada mês do ano fluiente vem sobrepunhando o mês correspondente de todos os anos anteriores por longa margem e, já o primeiro trimestre do presente exercício superou a arrecadação de igual período do ano anterior de rs. 10.232:717\$000, registrando um aumento correspondente a 15%.

O crescimento representado por essa cifra corresponde exatamente ao que faltou à arrecadação de 1940 para que a Receita orçada desse tributo fosse atingida. Quer isso dizer que, se os meses próximos apresentarem, apenas uma arrecadação igual à obtida no ano passado, a Receita prevista para este exercício será plenamente satisfeita.

e, se fôr mantida até o término do exercício a mesma proporção de aumento, a rubrica orçada será coberta com grande margem.

O total geral arrecadado em Março corrente foi de réis .... 28.070:262\$200, contra réis .... 23.110:694\$100 obtidos no ano passado, tendo havido, assim, este ano, nesse mês, um aumento de 4.959:568\$100.

A arrecadação se distribuiu como segue: na capital, este ano, 15.295:942\$600, contra .... 13.454:528\$400 no exercício

passado; em Santos, ..... 5.525:799\$800, e, finalmente, no interior, 7.248:519\$800, contra 5.738:041\$100.

O acréscimo do mês de Março do presente exercício ficou assim distribuído: na capital: .... 1.841:414\$200; em Santos, .... 1.607:675\$200, e, no interior, 1.510:478\$700.

Sem dúvida alguma, esses números dão mostra da absoluta normalidade dos serviços de arrecadação e constituem um índice expressivo de sanidade econômica e da expansão ininterrupta de São Paulo.

# O enquadramento sindical

No desenvolvimento da política de organização de todas as classes sociais, afim de tornar para todos mais confortáveis as condições da existência, o Governo da República continua a tomar providências no sentido de dar a essa política um cunho eminentemente prático. Teve esse objetivo a instalação da Comissão de Enquadramento Sindical, composta dos diretores do Departamento Nacional do Trabalho, como presidente, do Serviço de Estatística de Previdência do Trabalho, do Departamento Nacional de Indústria e Comércio do Departamento de Administração do Ministério do Trabalho e de representantes das classes empregadoras e dos empregados.

O ministro do Trabalho teve, por essa ocasião, oportunidade de, mais uma vez, ressaltar a política humana e generosa do Presidente Getúlio Vargas, cuja preocupação permanente, desde que assumiu o Governo da República,

pública, tem sido a de dotar o país de uma legislação social que proporcione uma situação de paz, de ordem, de disciplina e de conforto para todos os que vivem do trabalho honesto. Nessa ordem de considerações, falaram, ainda, os diretores do Departamento Nacional do Trabalho e os representantes dos empregadores e dos empregados, todos reconhecendo e proclamando a benemerência da atuação do Presidente Getúlio Vargas, que assentou resolver os problemas do trabalho por meio da colaboração de todas as classes sociais devidamente organizadas, cooperando para que a existência da coletividade e de cada um dos seus membros seja o mais possível confortável para todos os indivíduos.

Com efeito, o Presidente Getúlio Vargas deu à nossa política, sob o ponto de vista da proteção aos indivíduos e às classes trabalhadoras a que pertencem, uma tão sagaz e benéfica orientação, que não só no país se tem a satisfação de verificar os seus efeitos profícuos, mas, até no exterior, a reconhecer e proclamam quantos têm conhecimento da obra humana e generosa do Chefe do Estado Novo.

# Situação do café

(5)

—TEOFILO DE ANDRADE

Naquela ocasião, foi lembrado e muito bem lembrado, que os governos estaduais deveriam cooperar com o Federal, na obra meritória de tornar o café brasileiro capaz de concorrência mais franca, nos mercados consumidores do exterior. Devemos recordar que a idéia mereceu o patrocínio do Ministro da Fazenda, que convocou, na Capital da República, uma conferência dos secretários estaduais de Fazenda, com a tarefa, anteriormente prefixada, da uniformização e redução dos tributos. Infelizmente, as necessidades dos fisco estaduais mostraram-se por tal forma exigentes que não foi possível conseguir-se a meta almejada. Os impostos que oneravam o café ficaram mais ou menos na mesma situação em que estavam anteriormente. E um deles foi mesmo majorado: o de consignações e vendas mercantis, cobrado anteriormente, pela União e que, a partir da Constituição de 1934, passou a ser arrecadado pelos Estados. A taxa antigamente cobrada pelo Governo Federal era de apenas 3\$000 por conto de réis. Depois daquela reunião, foi fixada, uniformemente, pelos Estados em

12\$000 por conto de réis.

Posteriormente, alguns Estados cafeeiros, alegando deficiência de arrecadação, criam novas taxas sobre o café. E o resultado é que se ficou no regime de disparidade, existente antes de se iniciar a política de concorrência.

Com as taxas estaduais, que incidem sobre o café, variam de ano a ano, de acordo com os orçamentos decretados, os quais são, não raro, modificados por leis posteriores, dificilmente se tem um quadro exato da situação. Ha, ainda, a considerar que algumas taxas são cobradas ad-valorem e as pautas respectivas, fixadas por semana ou por mês, modificam-se de acordo com a situação do mercado cafeeiro, isto é, conforme a alta ou baixa dos preços.

Em fins do ano passado, de acordo com a legislação vigente e com as pautas então decretadas, era a seguinte a tributação estadual sobre o café, nos principais Estados produtores. S. PAULO — Taxa-ouro — 2\$000; impostos de vendas e consignações (1,25% ad-valorem) — 2\$000; total — 4\$000.

MINAS GERAIS: Imposto de exportação (2,50% ad-valorem)

— 2\$650; Taxa de defesa da produção — \$600; Taxa de armazenamento — 4\$800; Imposto de vendas e consignações (1,25% ad-valorem) — 1\$350; total — 8\$600.

PERNAMBUCO: Imposto de exportação — 4\$220.

PARANÁ — Taxa-ouro — 4\$800; Taxa de 7% ad-valorem — 4\$200; total — 9\$000.

ESPIRITO SANTO: Imposto de exportação (5% ad-valorem) — 3\$900; Taxa de defesa do café — 5\$000; Imposto de vendas e consignações (1,25% ad-valorem) — 1\$112; Taxa de segurança e assistência social — 8\$90; Taxa escolar — \$089; total — 10\$991.

Dos Estados da Baía e Goiás não temos dados recentes.

Como se vê do citado acima, a taxa paulista não é muito elevada. Mas os Estados de Minas Gerais, Pernambuco e Espírito Santo impõem tributações verdadeiramente escorchantes, para um produto em crise e que já paga 12\$000 de taxa de exportação. Uma redução, neste momento, dos impostos estaduais sobre o café seria medida de alta sabedoria e de cooperação com a política que vem sendo seguida pelo Governo Federal

# Mais escolas, menos analfabetos

O censo de 1940 terá, entre as suas revelações esperadas como tão justificada ansiedade, a do número exato dos analfabetos existentes no país. Podemos ter, entretanto, desde já a certeza de que melhoramos bastante o coeficiente de letrados, que constitui para todos nós um motivo de justificado descontentamento.

A campanha de alfabetização que prossegue em múltiplos setores tem tido resultados positivos e inegáveis, apesar das dificuldades encontradas e que residem sobretudo nas grandes extensões por onde se dissemina a população rural. O índice em relação às zonas citadinas é francamente animador, em quase todo o país, verificando-se o aumento da frequência escolar de ano para ano.

O Presidente Getúlio Vargas é o grande animador dessa atividade benemerita, sendo inúmeros os atos de seu Governo, de incentivo a instrução popular. Esses atos deverão culminar em breve no Decreto-lei que unificará o ensino em todo o país, anseio de várias gerações de brasileiros.

Porque assim é, a Cruzada

Nacional de Educação resolveu solenizar, este ano, a passagem do aniversário do Chefe da Nação com a abertura de novas escolas e festejos em benefício delas. E certamente nada será mais grato ao seu coração de brasileiro que essa homenagem em que o grande beneficiário é o povo, a quem se facultam assim novos meios de instruir-se e progredir.

# A colônia iugoslava do Brasil protesta

Uma comissão iugoslava domiciliada em São Paulo expediu, em nome de sua colônia o seguinte telegrama ao embaixador da Iugoslávia na Argentina. "Com ampla publicidade, é reproduzida na imprensa deste país a notícia de que irresponsáveis telegrafaram de Buenos Aires a Berlim, exprimindo a gratidão pela libertação da Croácia e apoiando o governo do sr. Pavelich, "em nome de duzentos mil croatas residentes na

América do Sul".

A colônia iugoslava no Brasil, composta, em sua maioria, de elementos croatas, pede vênia para protestar perante v. excia. contra os atributos gratuitos irrogados por oportunistas, que, sendo verdadeira a transmissão do telegrama, desrespeitam a neutralidade do país amigo. Repudiando os citados mercenários esta colônia não pode senão reafirmar os altos sentimentos pela unidade nacional e liberdade da Iugoslávia".

# 何時も愉快



しかも健康的である爲には

血液を増し、體器關を丈夫にする強壯劑 トニコ・バイエルを御服用下さい

大塚、小塚と二種類あります

トニコ・バイエルを何時も座右に



# Pequenas Notícias

S. JOSE' DA COSTA RICA, 14 (T. O.) — Informam que o governo da Costa Rica confiscará um milhão e meio de marcos, saldo a favor de alemães na liquidação das operações da compensação.

O confisco é para cobrir os gastos que ocasione o processo instruído pelo mesmo governo contra marinheiros alemães.

GUATEMALA, 14 (T. O.) — A Secretaria de Agricultura dirigiu aos prefeitos uma circular solicitando que promovam a classificação da serventura de terras e outros produtos de primeira necessidade para a alimentação do povo, devendo ser empregado todo o terreno aproveitável.

GUATEMALA, 14 (T. O.) — "Nuestro Diario" reproduz informações do "Coffee Intelligence", segundo as quais, no caso de ocupação de todos os navios em portos americanos, es-

# Produção brasileira de fumo Mais de 92 milhões de quilos

RIO, 12 — O Brasil ocupa, presentemente, o quarto lugar do mundo na produção de fumo, depois dos Estados Unidos, Índias Britânicas e Rússia.

Segundo os dados elaborados pelo Serviço de Estatística do Ministério da Agricultura, em 1939, produzimos 92.487.224 quilos de fumo.

Para esse total, o Norte con-

correu com 1.736.734 quilos (Acre 150.000, Amazonas ..... 345.500, Pará 770.000, Maranhão 33.234 e Piauí 438.000); o Nordeste com 7.031.050 quilos (Ceará 1.710.000, Rio Grande do Norte 143.270, Paraíba ..... 1.700.000, Pernambuco ..... 2.200.000 e Alagoas 1.278.380); o Leste com 37.775.500 quilos (Sergipe 770.000, Baía ..... 36.685.500 e Espírito Santo ..... 320.000); o Sul com 33.451.240 quilos (Rio de Janeiro 200.000, São Paulo, 1.600.000, Paraná 181.600, Santa Catarina ..... 4.519.640 e Rio Grande do Sul 26.950.000) e o Centro com ..... 12.472.100 quilos (Mato Grosso 186.000, Goiás 1.523.000 e Minas Gerais 10.763.100).

Os referidos dados revelam produzir a Baía cerca de 40% do total brasileiro, colocando-se o Rio Grande do Sul, em segundo lugar, com parte de 30% e Mi-

nas Gerais em terceiro, com mais de 11%. A produção de Santa Catarina corresponde a quase 5%. Os demais Estados são, de um modo geral, produtores de fumo em rolo, destinados ao consumo interno.

No que concerne à exportação, cresce ainda mais a importância da Baía, que contribui com quantidade superior a 80% do total brasileiro, sendo seus fumos muito apreciados para a confecção de charutos. A guerra na Europa prejudicou sensivelmente a exportação do produto baiano.

Afim de concorrer para a racionalização e o incremento da cultura do fumo, o Ministério da Agricultura mantém os campos de sementes em Tracuateua, no Pará, e em São Gonçalo, Baía, além de um Campo Experimental na Pomba, Estado de Minas Gerais.

# A fundação do Clube dos Deputados

TOKYO, 16 (D.) — Realizou-se hoje a partir de meio dia, no salão do Hotel Imperial uma assembléia de deputados para apressar a fundação do Clube dos Deputados que terá como presidente o príncipe Konoye. Tomaram parte 70 membros dos mais representativos das duas câmaras. A sessão foi denominada: "Sessão de promoção de fundação do clube dos membros do Parlamento".

Na sessão foi resolvido que os presentes esforçariam na fundação do clube de classe dos deputados. Serão nomeados posteriormente membros de comissão de trabalho da fundação da nova Associação, os 300 membros da Associação Pró-Política Imperial.

# O primeiro ministro canadense em Washington

## Entrevista com o sr. Roosevelt

OTTAWA, 15 (D.) — O primeiro ministro canadense, sr. King, atendendo ao chamado do presidente Roosevelt, partiu hoje, rumo a Washington. Não se sabe nada ainda sobre a finalidade da entrevista dos dois esta-

distas, mas supõe-se que a conversa verse sobre o plano conjunto de armamento "yankee" canadense e sobre o tratado dos dois países referente à exploração do rio São Lourenço.